

学校の教育目標：やさしく かよく たくま 経営方針：心の宝物が輝く学校



# THE かさはら TEAM

令和 3 年度  
笠原小学校  
学校便り  
5 月 27 日号

児童会：新しいリーダーによる新しいスローガンを楽しみにしています

## 今求められていること

校長 鈴木 稔朗

例年より早い梅雨入りで、不安定な天候が続いています。それでも、晴れ間の空は風薫る 5 月のさわやかさで美しく広がり、心を和ませてくれます。

昨年度はなかった 4 月、5 月の学校生活を、児童は全身で満喫しています。朝の児童玄関には、代表委員の 5・6 年生が立ち、登校する子達と挨拶を交わしています。どの学年のどの学級にも、みんなで伸びようという意欲と元気な笑顔があふれています。天気の良い日の休み時間にはグラウンドに歓声が響きます。汗が光る学級遊びの鬼ごっこ、ジャングルジムの 2 段目まで登って得意そうな 1 年生、何度転んでもあきらめず、日に日に上手になる一輪車。掃除が始まる前から床を一心に磨く 6 年生の姿。

もちろん、トラブルも、けがもないわけではありません。私たち職員のみすで、保護者にご迷惑をおかけしたことも。しかし、そうした学校の日常生活の全ての経験を学びの機会として、子どもたちも、私たち職員も、きっと保護者の皆様も、なりたい自分に向かって歩み続けている。そんなチーム笠原の一人一人のよりどころとして学校が回り始めています。

\*\*\*\*\*

新型コロナウイルス感染症の猛威が続いています。市内では児童生徒が陽性となり、休校措置をとった学校もあります。まずは感染した方の体が快癒すること、その人の周囲が、その人の心の内を思いやり、心ある対応をしてくださることを祈らずにはられません。

昨年度の 8 月の本稿で、「コロナいじめ」を共に防いでいただくお願いをしました。全学級で、そのことに係る道徳の授業を行いました。地域をあげて、感染した方やご家族について、「排除でなく共感」を宣言するシトラスリボンの取り組みも始まりました。このことも、子どもたちの大きな学びとなりました。本校でも、これまで、児童本人や職員、同居のご家族の様々な状況がありましたが、心ない言葉や行動で傷つける、傷つけられるといった悲しいことは、知る限り一度も起こっておりません。これは決して当たり前のことではありません。日常生活の全ての経験を通して、児童の心の内に「そうした方がいい」行動を選び取る力が、優しさと強さが育っています。素敵な子どもたちと、日々奮闘する職員、支えてくださる保護者の皆様や地域の皆様に心から誇りに思います。

元気に遊び、学ぶ一方で、児童は感染予防にも懸命に取り組んでいます。マスクの着用と手洗い、給食時間の「黙食」の徹底、距離を取り、時間を限って行うグループ学習。多治見市にまん延防止等重点措置が適用された後は、高学年の児童を中心に意識も高まっています。6 年生の A さんは、ある日の授業中、話し合いに熱が入って近接した仲間の姿を見て「もうちょっと距離を取ろう」と呼びかけていました。勇気を出してよく言ってくれたと感動しました。自分と仲間の笑顔と命を守る素晴らしい姿です。

コロナ禍の生活の中で、できないことを受け入れ、ある部分では徹底して耐えること。それでも他者と折り合い、思いやり、知恵を働かせ、工夫を凝らし、前を向いて伸びていこうとする営みをあきらめないこと。それが、今、私たちに求められることではないでしょうか。毎日の授業や遊び、掃除、給食、係や委員会の活動、水泳の授業、運動会、旅行的行事。全ての経験がよき学びとなり、児童一人一人の心の宝物が輝くよう、教育活動を推進してまいります。保護者、地域の皆様の一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。